

第 16 期 事 業 報 告

(自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 21 年 3 月 31 日)

1 株式会社の現況に関する事項

1 - 1 事業の経過及び成果

今期における当社の会社全体の売上高は、勸業館での呉服・宝飾関連の大型催事及び大手百貨店等の販売会の取り止めや各種展示会の規模縮小の影響で施設利用料収入が減少したこと、また、伝統産業ふれあい館の事業についての委託先が見直され、京都市から直接運営を担当する財団に委託されることになったことにもなう業務受託収入の減少等により、昨年度と比し 32,025 千円減少し 747,708 千円となりました。

当社の主要事業である勸業館事業については、昨年度から継続して「広範な利用促進」を目指し、積極的な営業活動、広告宣伝活動の強化等に取り組んできたものの、大型催事の取り止めや規模縮小により、また、周年事業等の単発催事が少なかったこと等が響き、面積稼働率は昨年度を 3.58% 下回る 41.37% にとどまりました。これにより駐車場を含む施設利用料収入は昨年度に比し 46,309 千円減となる 462,473 千円となりました。

ふれあい館事業については、下期には定期観光バスの団体客の受け入れを開始するなど活性化に努めましたが、来館者の減少に歯止めをかけることはできませんでした。一方、ミュージアムショップ「京紫苑」の商品売上は、6 月に店内をリニューアルするとともに店名を変更して PR に努め、昨年度に引き続いての特別販売コーナーの実施に加え、JR 東海ツアーズ主催の「日帰り 1day 京都」に参画するなど売上の増加に努めた結果、前年を大きく上回る 48,933 千円を確保することができました。

また、自主企画事業についても、岡崎地域活性化事業として実施した岡崎オータムフェスタをはじめ疏水桜ライトアップ、お猪口まえフェア、京ものフェスティバル等を実施し、勸業館への集客はもとより、岡崎地区の活性化に繋がる一定の成果をあげることができました。

京都館事業については、東京駅前という立地から来館者数は順調に伸び、前年比 103% の約 25 万人となり、情報コーナーへの来客数も前年比 144% と飛躍的に増加しました。また、今期から京都の市バス乗車券や都をどりのチケットの取扱いを始め、お客様から大変好評を得ました。一方物販部門については、店内のレイアウトとディスプレイを見直し、季節感を醸しだせるように心掛けて販促イベントを実施するなどの効果により、売上高は前年比 104%、144,849 千円を達成することができました。

さらに、勸業館、京都館とも費用対効果の分析を徹底し、指名競争入札等の実施により経費の削減が実現できたため、売上高は大きく減少したものの経常利益 35,710 千円を確保することができました。これにより、第 14 期(平成 18 年度)に東京支店の移転にもなう固定資産除却損により大きく減少した純資産はほぼ第 13 期(平成 17 年度)並みに回復できたといえます。

1 - 2 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第 13 期	第 14 期	第 15 期	第 16 期 (当事業年度)
売上高	877,986 千円	844,042 千円	779,733 千円	747,708 千円
当期純利益	17,403 千円	108,716 千円	60,036 千円	35,255 千円
一株当たり当期純利益	9,668 円 66 銭	60,398 円 32 銭	33,353 円 37 銭	19,586 円 28 銭
純資産	323,439 千円	214,722 千円	274,758 千円	310,014 千円

(注) 第 14 期は東京支店の移転に伴う固定資産除却損の計上により、当期純利益、一株当たり当期純利益、純資産の金額が著しく減少しております。

1 - 3 対処すべき課題

当社は、京都市が平成 20 年 7 月から実施した京都市勸業館の指定管理者の公募選定に参加し、選定審査の結果、平成 21 年度から向こう 4 年間の指定管理者に選ばれました。そのため、今後の 4 年間は、公募にあたって提案した「事業運営に関する計画」や「経営に関する計画」等を誠実に実施していくこととしております。

そのためには、まず第一にお客様サービスに徹した積極的な営業による勸業館の利用率の確保があげられます。首都圏をはじめ中部圏、大阪方面など系統的に訪問活動と宣伝活動を行ってまいります。地元京都の利用者確保については、きめの細かい訪問活動を通じて利用者の要望に応えられる企画運営サービスを提供できるよう努力し、単なる貸し館業務ではなく、展示会等の企画運営業務もこなせる会社として成長していくことを目指してまいります。

第二には、ミュージアムショップ「京紫苑」の売上拡大と自主企画事業の推進、美術工芸ギャラリー及びレストラン事業の推進があげられます。勸業館には京都の伝統産業の振興及びイベントの開催、展示会、会議誘致にともなう観光振興への貢献などが期待されています。地元経済の発展にその責任と役割を果たしていくためにも、ミュージアムショップ「京紫苑」については、オリジナル商品の開発やカタログ販売の実施など積極的に販売促進に取り組んでまいります。また、来期から正式な受入れを予定している伝統産業体験講座を中心とした修学旅行誘致事業「みやこめっせウェルカムプラン」を筆頭に京ものフェスティバルや岡崎地域活性化事業として疏水桜ライトアップ、岡崎オータムフェスタなどの自主企画事業にも積極的に取り組んでまいります。

第三には、徹底した経費の見直しによる経営効率の向上です。警備、清掃、ビル管理その他各種の保守管理委託等の見直しに引き続き取り組み、経費の節減を目指してまいります。また、来期には勸業館の基幹システムである展示受付管理システムが京都市によりリニューアルされることとなっており、より効率的な業務遂行を目指してまいります。

ふれあい館事業については、京都市から運営を受託されている財団法人京都伝統産業交流センターと連携し、来館者の増加を第一目標として広報活動の強化に取り組み、「みやこめっせウェルカムプラン」による集客をはじめ、旅行代理店とタイアップして団体

客の誘致を図り、活性化に努めてまいります。

京都館事業については、首都圏での京都の魅力を発信するため、京都市との連携・指導のもと、効果的なシティセールスを行なってまいります。魅力ある情報発信事業と物販事業を展開し、京都館の認知度を高め、京都の産業の発展、観光の振興に貢献してまいります。また、京都館の新しい会員組織である「京都館みやこ会」の会員獲得を首都圏全域で広く目指すとともに積極的に販売促進に取り組んでまいります。

最後に、指定管理者として地元業界はもとより一般市民に対しても理解と支持が得られるようコンプライアンスの徹底を図り、4年後に来る次回の指定管理者公募選定に自信を持って名乗りをあげられるよう更なる成長を目指して業務に取り組んでまいります。

1 - 4 当該事業年度における主要な事業内容

当社が現在行っている事業の主なものは、次のとおりであります。

(1)勸業館事業

展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの貸出、展示会の企画運営サービス、駐車場管理

(2)ふれあい館事業

伝統工芸品の普及啓発、伝統工芸品の販売

(3)自主企画事業

フリーマ in みやこめっせ、お猪口まえフェア、京ものフェスティバル、伝統産業の日 in みやこめっせ～ふれあい館まつり～、疏水桜ライトアップ、岡崎オータムフェスタ(岡崎地域活性化事業)等の実施

(4)京都館事業

京都市受託事業の実施(京都館の運営、イベントの実施、京都情報の発信等)、京都産品の販売

1 - 5 当該事業年度の末日における主要な営業所及び使用人の状況

(1)主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

東京支店 東京都中央区八重洲二丁目1番1号 ヤンマー東京ビル 1F

(2)使用人の状況

従業員数	前事業年度末比増減
36人	0人

(注)従業員数には、臨時社員を含んでいます。

2 株式に関する事項

(1)株式数

発行可能株式総数	4,000 株
発行済株式の総数	1,800 株
当事業年度末の株主数	9名

(2)株主及びその持株数

株 主 名	持 株 数	持株比率
京 都 市	1,080 株	60.0%
京 都 府	100	5.6
京 都 商 工 会 議 所	100	5.6
(財)京都伝統産業交流センター	100	5.6
(社)日 本 図 案 家 協 会	100	5.6
株式会社 三菱東京 UFJ 銀行	90	5.0
株 式 会 社 京 都 銀 行	90	5.0
京 都 信 用 金 庫	80	4.4
京 都 中 央 信 用 金 庫	60	3.3
合 計	1,800	100.0